

総務常任委員会

(令和6年7月16日)

総務常任委員会

午前10時09分 開会

○中村英仁委員長 ただいまから、総務常任委員会を開会します。

本日の会議は、タブレット端末に掲載した日程により進めてまいります。

それでは、「2. 協議事項 (1) 防災をテーマとした政策提言について」のうち、「ア. 具体(案)について」を議題といたします。

所管事務調査で得た知見につきましては、皆様に作成いただいた所感を集約させていただき、正・副委員長において、各委員の意見をまとめたものを事前に送付させていただきました。

例えば、大分県大分市のようなアクションプランの策定が求められるという考えや福岡県北九州市のように、業務を正確に把握し、見えない業務が見える化するという意見。大分県別府市のように、要支援者名簿の活用方法を市内の自主防災組織に事例紹介するなど、実際の訓練時に運用していく必要がある。

別府市のように、机上では計画のみならず、実際に障がい者が、訓練に参加できる環境をつくることを検討しているという意見。別府市では、個別計画の策定において、繰り返しの実践的な体験の中で改善していくという視点で取り組み、エビデンスに基づく計画で成り立っているという意見。

別府市の現実に即した訓練より実効性のあるものにすることや北九州市の災害の際にDXの環境をどう維持していくかなど御意見をいただくことができました。

各委員から頂いた意見を参考に、どのことを軸に、提言をしていくことがよいか、各委員の皆様から御意見をお聞きしたいと思います。

防災という大きなテーマを決めたところから、その防災の中の具体的なテーマという形になるかなと思うので、ここで視察もしてきたことですし、皆さんのタブレットに、今後のスケジュール(案)を出させていただきましたけれども、そこに政策提言に関する項目抽出ってところで、各委員から御意見をいただきたいと思いますので、順番にお願いしたいと思います。

大塚毅委員。

○大塚毅委員 具体的なテーマっていうところなんですけど、今回、視察して、皆さんの意見をそれぞれ記載していただいた中で、多分、具体性を持って進めやすいのは、要支援者に別府市の取組を参考に、要支援者に対しての防災かなと思います。要支援者に対しての防災っていうふうにやってくと、政策提言としては、大分県別府市が分かりやすいこともあるので、進めやすいかなって思うんですけど、ただ一つ懸念が、その要支援者だけではなくて、要支援者を配慮することによってさらに健常者というか一般の人たちにどういうふうにメリットというか、波及していくかっていうところまで考えられ

たらいいかなと思う。

要支援者だけになっちゃうと、どうしても何か他の一般の方たちは、あまり関係ないって言ったら、ちょっと語弊があるんですけど、自分事じゃないっていうふうに感じてしまいそうところが一つ懸念がある。進めやすさで言うと、その要支援者は進めやすいかなと考えました。

以上です。

○中村英仁委員長 原聡委員。

○原聡委員 私は、防災のところで、別府市もすごく気になってはいたんですけど、秦野市の現状を見ていくと、本当に所管事務調査を受けての各委員の意見のまとめのところでも、最後に書かせていただいた大分市においてのアクションプランです。

そういったものが、執行部にも、当然動いていただいたり、あと市民の方、やっぱり防災意識だったり、各エリアにおける、もう少しあと一歩進んだ形のプランが、望ましいかなっていうことを予算の関係も含めて思いました。

以上です。

○中村英仁委員長 相原學委員。

○相原學委員 視察には、行けず大変申し訳ありませんでした。

考え方としては、今回の能登半島地震において、今までと違った形での防災という観点から、抜本的に考え方を変えなくちゃいけないんじゃないかと思っていまして、その辺のところを減災も含めて進めて行けたらなと思います。

以上です。

○中村英仁委員長 八尋伸二委員。

○八尋伸二委員 少し、大塚委員とも、かぶるかもしれないのですが、要支援者の避難とか含めまして、誰一人取り残さないということでは、障がい者とかそういうところに特化する部分も出てくるのかもしれないんですが、例えば、会社単位だったり、そういうところでしっかりと本当にやられているのかどうか。そういったことを何か突き詰められるような形になればいいんじゃないかなというふうに思います。

それからもう一つ。そうするとどうなのかなと思ったのが、以前、総務常任委員会の視察で、記憶があるんですが自治会の話で、自治会の安否確認自身をしっかりとやるような形にしておいたほうがいいのかないかなということで、防災の中でトータル的に誰一人取り残さないっていうことをテーマにしながら、具体的に何をやっていこうかっていうふうな形で決めたほうがいいのかないかなというふうに思います。

以上です。

○中村英仁委員長 古木勝久委員。

○古木勝久委員 私は、原委員とちょっとかぶるかもしれませんが、大分市の国土強靱化計画とアクションプラン、この流れを非常に注目していて、秦野市でも国土強靱化

計画を策定しているんですけれども、国土強靱化計画っていうのは、私、報告にも書きました。令和3年から令和12年までの期間としているんですけど、ただし、その社会経済情勢の変化や施策の進捗状況を踏まえて、必要に応じて、見直しを行いますという、こういう書き方をされているんですよ。

でも、大分市は、毎年見直しをして、その見直しの仕方も一部署がやるんじゃないくて、国土強靱化計画を推進している課が司令塔になって、全庁的に、クラウドを作っているんですよ。

この流れは、すごいなと。大分市は、県庁所在地です。私は、必要に応じてではなく、ここで強調されているPDCAサイクルを秦野市も、やっぱりもう一回見直したほうがいいんじゃないか。

それともう一つ、せっかく北九州市のDX戦略と災害とどう結びつけていくかだと思います。

実際は、例えば、能登半島地震の話が出ましたけど機能されていなかったという情報が結構入ってきています。

全然機械が動かなかったなど、課題のような気がして、私は、北九州市が答えじゃなくて、ヒントは、北九州市にあるのかなというふうに、私、北九州市のコメントを入れたんですが、今回、私の中に北九州市の記載がないんですけど、非常に、学ぶべきところがあったなと思いました。北九州市は、規模が、大きいけど、考え方というか、方向性は、秦野市も同じにしておかないと新しいDXと災害を結びつけていかないと、せっかく行って何かいいヒントがあったなとは思っているんですよ。

以上です。

○中村英仁委員長 今井実委員。

○今井実委員 自分は、秦野市も、それなりの防災計画を持って、進めているわけで、その中で、視察に行ってきた、三市それぞれ特徴があるというか、そういう方向で具体的に取り組んでおられることを勉強してきました。秦野市には秦野市らしさっていうか、地域性というのも、十分あるんだと思ひまして、そこに、今回、視察に行ったら、我々が見てきたものをうまく比べて、秦野市では、どこが弱くて、どこを補強すべきか、自分としてはやっぱり3市視察に行かせてもらって、そういう仕組み作りっていうか、計画もいいんですけど、実際もうちょっと認識をして、能登半島地震の話も出ましたが、そのときに、現場で機能しないと一番困るんだと思ひていて、だから、そのDXでも何でも、その支援物資を届けるのもそうでしょうけども、実際に即したっていうか、もうちょっと危機感を意識した、そういう提言を盛り込んでおいたほうがいいのかと思います。本当にいつ起きても、今日でも明日でもおかしくない状況で、日々生活していますので、そういったことを頭に入れながら、要するに計画の中の計画ではなく、実効性があるっていうか、具体的な提言をしたほうがいいんじゃないかなと思います。

また、古木委員がおっしゃったように、秦野市でもやっているから洗い直して、必要なところを全部変えていくっていうことをされたらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

○中村英仁委員長 小山田良弘委員。

○小山田良弘委員 皆さんの意見をいろいろとお伺いいたしまして、大きくは要支援者をどうするのかっていうお話と、あとは秦野市のアクションプランをこのメンバーで全部作るっていうことは、多分難しい。そこはなかなか難しいと思うんですが、その話と、あとはDXと災害をどう結びつけていくのかというと、それは北九州市のエキスを入れて、秦野市で、例えば先ほどから出ています能登半島地震を経験して、毎回大地震が起きるたびに、これまでとは違う対応をしていかなきゃいけないという、まだ過渡期にあると思いますのでそういったところでDXを使って、うまく瞬時にいろんな対応ができるようにするっていうのも重要なというふうにも思いました。そういうことと、もう1個、04の参考資料で国土強靱化計画というものがございます。これはカラーの横のものなんですけど、昨年の7月に閣議決定をしました新たな国土強靱化基本計画の概要というところがありますが、これに赤い枠で囲ってある新規というのは3つあるんですね。

1つは中段のところの右側なんですけど、社会情勢の変化に関する事項と近年の災害からの知見という情勢の変化がありましたよということを踏まえて、その下で、五本柱の今まで3つの柱だったんですが、それが5つの柱になってデジタルと新技術の活用による国土強靱化政策の高度化というのとあと一番右側にあります地域における防災力の一層の強化、地域力の発揮。こういったところが国でも、新たにこういうところを積極的にやるべきだというふうに言っておりますので、そういった意味からすると、例えば、古木委員がおっしゃったDXと防災にどうつなげるのかっていうまさしく国が先陣切ってやろうとしているところでもあり、さらには、一番右側の地域における防災力の一層の強化っていうのは、誰一人取り残さないっていうのは、まさしく地域力だと思います。

そういった自治会を活用したり、要支援者も含めて、一般市民もということなんですけど、そういった視点で今井委員からもありました、実際に即した提言とか実効性のある提言をしたほうがいいんじゃないかっていうのは、まさしくここに当たると思います。そういう意味からすると、アクションプランというのはあまりにも大き過ぎて、アクションプランをこの総務常任委員会のメンバーだけで作るとは、私は、スケジュール的に難しいかなって思います。その中でDXのエキスをどう生かすか、あるいは誰一人取り残さないという考えをどう取り入れるかっていうのは、皆さんで、議論しながら、実際に視察をしてきましたんで、まとめ上げることがスケジュール的にはできるのかなというふうに思います。私は、国が言ってるから云々ではなくて、皆さんの意見を集約するとそういったDXと地域力の強化という意味で集約できるのかな。

そのほうがより具体性があって、能登半島地震を受けて、さらにまた一歩前進して

やりましょうよという提言ができるのかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 先ほど委員長に大変失礼なことで申し訳ございません。決して恨んだわけではなく、今も、すごく大事なお話で、アクションプランを作るっていうことではなくて、例えば、先ほどいわゆる八尋委員が言われた安否確認要支援者もそうですが、誰一人取り残さない。先日、私、ある自治会から呼ばれて、自治会長から聞きましたが、救命ボックスってものがあり、西地区でやっているらしいんですよ。

地域の皆さんの安否確認からスタートして、正確な情報収集。地域でどんなことが起きているか、その安全確保に至るまでの作業の流れをちょっと聞いてきたんですよ。

自治会長が言っていました。この情報をどうやってみんなで共有するかって、携帯だとか、D Xにつながるような気がします。安否確認システム、さっきの要支援者にしても、あれもこれもって、絶対できなくて、総合的なその絵に書いたようなアクションプランっていうのはなかなかできないと思うんですけど、各論としてのアクションプランは、相当にそこを上げなきゃいけない。そういうつもりでアクションプランを話ただけで、大分市のアクションプランは、絶対無理です。あの組織の在り方も踏み込んでですよ。別に司令塔の動きとかね。

非常に分かりやすい説明でした。たまたま八尋委員から、救命ボックスっていうキーワードが西地区でやっていることを聞きました。

大根地区でもやっているらしいですが、ただまだ広がりがなく、救命ボックスって大したものではありませんが、防災備蓄倉庫とは違って、初期の話ですとのことでした。そういう意味のアクションプランですよ。

以上です。

○中村英仁委員長 ありがとうございます。今、小山田委員に大体まとめていただいたので、そこが皆さんの納得されているところなのかなと思っているんですけども、大枠として、それで皆さんところに防災のもう一つの資料として、総合計画の中で、防災の部分というのですが、現状の防災・減災計画の推進というところが入っています。

先ほど、大きな枠で、基本的にその大きな枠の中のこの部分をまだまだ秦野市に足りないから推進していくべきでしょうっていう考え方が、私も一番いいんじゃないかなと思っているので、小山田委員から出していただいた、この国土強靱化基本計画の概要の中に、新規で大きく2つ。今まで違う部分が出ているところが、まだ秦野にも反映されてないのかなというところが、あるので、このデジタルの活用というか、要は、結びつきというところが、大きな1つと、あとは、地域における防災力の強化っていうところで、別府市で学んできたものを取り入れていくっていう形が、一番現実的かつ市民に対して足りないところを補えるのかなというところと、できる可能性があるものなのかなというふうに思うんですけども、そんな感じの進め方にしていきたいと思えます。

れども、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

一応、その２つ大きな軸として、あと、細かいところを皆さんと相談をしていったりとか、あとは、例えば皆さんがいろんなところで、見聞きしてきたものとかこういうのがあったり、こういうのがいいんじゃないかとか、御提案いただいたりっていう形で、今後していきたいと思います。

また、本日の御意見を踏まえて、正・副委員長において意見を取りまとめて、これを軸に進めていきたいと思えますけど、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、「イ．議会報告会における意見交換先の選定について」を議題といたします。本年度の議会報告会については、政策提言のテーマに関する団体との意見交換を実施することを前回決定いたしましたけれども、今、御意見いただいた中で、どのような意見が必要か、聞きたいかによって意見交換先も変わってくるのではないかなと思います。先ほど、今後のスケジュールのところを示しましたがけれども、一応、あくまでも案ですけども、期日については10月末から11月上旬頃に実施をしていきたいなというふうに思っています。

そのスケジュールで行くんですけれども、本日ここで、御意見をいただくことは難しいと思いますので、その意見交換を行う相手を選定する際に、理由もつけていただいて、次回の委員会の際に御意見いただきたいと思えますけれども、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

それでは、次回、各委員から御意見を伺いますので、よろしくお願いいたします。

古木委員。

○古木勝久委員 議会局で把握されているかどうか確認したいのですが、たしか私の記憶だと、過去に、防災アドバイザーと意見交換した記憶があるのですが、どんな団体と月並みな質問で恐縮ですけど、覚えてらっしゃいますか。

○中村英仁委員長 分かりますでしょうか。

議会局書記。

○議会局書記 前回、議会報告会の中で、意見交換会をさせていただいた際には、防災アドバイザーを防災課に頼んで、出席していただきました。あと、若者の意見を取り入れたいということで、学生団体のＥ４に依頼をしまして、その中で、ワークショップ形式で、２つのテーマに分けて、行いました。防災アドバイザーが４人、学生団体のＥ４

が2人に出席していただきました。

各委員も、2班に分かれまして、その中でどのような課題で、こういったことを課題に向けて取組が必要なのかっていうようなワークショップ形式で議論をしていただいて意見交換しました。若者の視点と、専門的な防災アドバイザーの視点と、それぞれ御意見いただきながら、行いました。

以上です。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 分かりました。一応記録はもちろん残ってらっしゃいますか。

○中村英仁委員長 議会局書記。

○議会局書記 ホームページに掲載してございます。

○中村英仁委員長 大塚委員。

○大塚毅委員 意見交換先って基本的に市内の方ですか。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 専門家を入れていくということですか。

○中村英仁委員長 大塚委員。

○大塚毅委員 今度、意見交換先を次の委員会のために理由つけて、伝えるってことだったんですけど、その手引きっていうかあるのかなと思って聞いてというか、そういうのは、次回でもいいですか。

○中村英仁委員長 基本的に秦野市の議会報告会の中で、意見交換をするのであって、基本的には市内の方だと思います。ただ考え方的に、例えばこういうところから、我々がいろんな御意見を伺いたいというケースのときっていうのは、またあると思うんです。

我々があくまでも、今こういうテーマであるんだけど、アドバイスをしてもらような感覚もあるかもしれないけれども、今のお話的には、基本的には意見交換を行いたい、あと、秦野市の議会報告会ってことを考えると、基本的には市内に関連する団体の方だと思います。

今井委員。

○今井実委員 秦野市の議会報告をして、意見交換を行うわけですから、意見交換先は、市内の方でしょう。

○中村英仁委員長 また、今、大塚委員のように、例えば大きな団体がいいとか、そういう講師がいて、いろんな今の話にマッチするようなことがあって、委員として、聞きたいんだけどっていう話であれば、それはそれでまた皆さんと検討いただいてっていう話になります。

古木委員。

○古木勝久委員 防災っていう観点で言うと面白い視点かもしれません。

広域的なものの考え方をして、他市と隣接する人と秦野市の人と意見交換するとか

ね、どういったことが成り立つのかとか、それはそういう視点であるかどうかちょっと私は分かんないけど。

○中村英仁委員長 これ意見交換会を先に入れちゃったからいけないんだけど、大前提としては議会報告会を委員会としてそれぞれ行っていく中で、一方的にこちらから全て話をするよりは、いろいろ皆さんから御意見を伺い、総合的にやるってことをしてもらうようになっているからってことも一つなんだけど、今回の政策提言をする上で、市民から直接お声を聞くっていうことが、実現できればということなので、今回はあくまでもお示しさせていただいた内容でお願いします。

例えば、北九州市のDXのときにサイボウズの話があったと思うんですけども、八尋委員から、お話聞くとサイボウズに言えば来てくれるんじゃないかっていう話とかもあったので、そういうところも実際にやるんだったら聞かなきゃいけないかもしれないので、そこは皆さんに、また御相談をしながらだと思えます。そういう御提案もいただいて、よろしいかというふうに思いますので、今回、10月下旬から11月上旬にあるものに関して、市内の団体と意見交換ということでもよろしいですか。

また、次回のときにこういう団体とこういう内容について話をしたいんだという御意見をいただきたいと思えます。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 それでは、そのように決定いたします。

次に、「3. その他」ですが、委員の皆様から、何かございますか。

八尋委員。

○八尋伸二委員 意見ですけど、今、サイボウズの話が出たので、少し。IT系の会社に勤めてるので、少しヒアリングをしました。そうしたら、北九州市が、サイボウズを採用しているってのは、すごいねっていう話になったんですが、懸念点が出てきていて、そのサイボウズが潰れた場合、それとキントーンが取り扱えなくなった場合ということが、必ずどっかで出てくる。バージョンアップするケースもあるんですけどね。

その場合、どうするかっていうのをちゃんとやっておかないと、やっていると思うんだけどっていう話をちょっと社内の知っている人から言われて、実は、うちも、古木委員が、一番知っている図書館システムっていうのをやめたんです。

大きな企業って、そういうことをしてしまうので、収益が上がりません。では、やめますって話になるんで、ベンダーロックインになっちゃうんでその辺を懸念しながら検討を進めるんだったら詰めて、もういいかもしれないねという話が出たんで、あの情報として、皆さんにちょっと伝えたほうがいいかなと思いましたので、発言させていただきました。

○中村英仁委員長 ありがとうございます。直接、八尋委員に聞いていただいても構いません。

意見交換会は、こういう話を聞きたいんだっていう話を次回でいただいても構わないと思います。

小山田委員。

○小山田良弘委員 すみません。政策提言をまとめていく際に、新人なんで分かんないんですけど、まとめていくやり方なんですけど、基本、委員の提案じゃないですか。

委員会から、このメンバーで多分いろいろ書き物をするんだと思うんですが誰がどうするっていうのは、今後決めていくことになるわけですね。要は、たたき台を作って素案を作って、出てくる順番にやってかなきゃいけない。

全て、正・副委員長が、作るわけじゃないと思うんで、例えばグループ分けして、何々を何々班でやるとか、いろんなやり方があると思うんですね。

○中村英仁委員長 八尋委員。

○八尋伸二委員 2回目ですから、小山田委員が、言われるとおり、やっぱり自立していかなければいけない部分があります。

1回目は、1年間しか実はなくて、それで今回は、2年間ちょっとまとめながらやっていこうっていうのがあるので、多分それができると思うんですね。

そういう担当を決めていくのが、1つの手だと思うので、そこは各委員会で検討するのか議会局の中でこういうふうに行ったほうがいいですよって話をしてもらうのか、検討が必要かもしれない。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 最終的には、小山田委員が、言われたんですが、最終的には要望書として市長に提出するんですけど。

○中村英仁委員長 要望書というか、プレゼンをしながら、政策提言として提出するということです。

古木委員。

○古木勝久委員 基本的には、議決するわけじゃないから、要望ですよ。

それで、前回、例えば、文教とかいろいろあったけど、ちょっと話をひっくり返した言い方になりますが、達成されたとか、あるいは到達点とかそういうのは議会局にお任せしちゃってるんですけど。

○中村英仁委員長 実際には、政策提言を市長が受けて、それをやるかやらないか、市長を初め執行部がどう捉えたかによって、なんです。それに対しての状況っていうのを現状だと、こちら側に伝えてこなきゃいけないということもあります。だから一番大事になってくるのはより実効性があるって執行部が、やんなきゃいけないなっていうようなところにしていかなければならないことが、我々の一番の役目だと思いますし、私は、前回、文教福祉常任委員会に所属していましたが、ある程度のあらすじというか、こういう形でこういう形ってのを作りましたし、それを担当書記と相談をしながら、より実

効性のある具体案としてやるようにしましたが、皆さんから集めた意見を正・副委員長で、まとめたという形にしたというのが現状だと思う。

そのやり方がいいか悪いかは置いておいて、それでやるか、もしくは、今、小山田委員が言ったように、班分けをして、2つテーマがあるので、そのテーマ担当の方にそれぞれ入っていただいて、そこで具体的な形にするかっていうのが、現状だとあるかなと思うんです。

皆さんどうお考えですか。

原委員。

○原聡委員 ほかの委員会とのバランスはどうでしょうか。

○中村英仁委員長 どういう考え方というところもありますが、提出の仕方が、統一感が取れていて、最終的なところの政策提言としての提出が同じであれば、いいと思います。

古木委員。

○古木勝久委員 今、委員長が言われた実効性が、可能性っていうか、そうすると予算編成に変更を伴うようなものとか、そういうのは除外していくっていう頭でいるっていうことですかね。マンパワーとしてこれは成り立たないので、何かあったら難しいですね。

○中村英仁委員長 提出時期を来年7月から8月を案としているので、再来年の予算編成に間に合うと思います。来年5月には決定して、その後、来年7月以降に提出するイメージです。

古木委員。

○古木勝久委員 さっき言ったように、予算編成の変更を伴うような中身っていうのは、どうしても出てくる可能性はそこを避けて、議論をしてくださいということですか。

○中村英仁委員長 そんなことないと思います。ただこれは皆さんの感覚だと思いますけど、大きな予算編成を伴うものっていうのは、なかなか難しいこともあると思います。

古木委員。

○古木勝久委員 10か年計画とか5か年計画というか、その流れで、事業やっていると思うんですよ、総合計画という1つの柱があるわけです。

それに合わせた流れになってくる。ここでいわゆる執行部の予算方針っていうのはね。

○中村英仁委員長 ただ、私の個人的な見解ですけど、今回の所管事務調査は、くらし安心部長も行ってくださっているんで、どの程度のお金がかかるなっていうことは、少し考えてくださっているんじゃないかなと思います。そんなに大きなものではなくて、ある程度のところを入れてもいいと思う。当然、DXなんて何を入れるかによって、お金のかかり方が全く違うと思いますし、今、あるものを使っていくのか、それとも新し

いものもありますから、そこを何と言うか、私が言ってるのは、より実効性を高くするための手段だと思っているんです。そこに予算がなければいほど、それは実効性が高くなるとは思いますが、それでそこを基準として、予算を少なくして実効性を高くしましょうっていうことを言ったわけではなくて、今井委員が言ったように、今の秦野市の現状を鑑みた上で、足りないところを強化していくのっていうところであれば、予算は伴うことは、仕方ないんじゃないかなと思いますけど、ただ予算を高くすればするほど、厳しくなることは事実だっていうのは、私より皆さんのほうがよく御存知だと思っていますので、そこら辺は別に特に私から何かを規制しているわけではなくて、別にそういう意味では何も私は言ってないので、後はもう皆さんにお任せします。

小山田委員。

○小山田良弘委員 さっき言われた委員長が言われた政策提言をして、執行部側からのフィードバックの話になってその流れで、より実効性の高いものであればっていう話をしたんですから、お金をではない。

○中村英仁委員長 古木委員。

○古木勝久委員 実行性っていうのは何か具体的に言うと、予算の話になったり、マンパワーがあったり、時間の問題など、いろいろありそうですね。具体的に言うと、例えば、秦野市を含め、地方自治体全てそうなんだけど、骨太の方針みたいなものが、あるわけじゃないじゃないですか。政府はいつも6月に出している。来年度の方針とか、あるいはむしろ四、五年の話って出ないじゃないですか。秦野市が出ているのは来年度の予算編成方針っていうのは、いつも10月から11月ぐらいに3%カットとか4%とかいろいろ出てくるでしょう。

○中村英仁委員長 相原委員。

○相原學委員 この政策提案、前回のも執行部から、こういうことをしますとか、こうしましたとかもないんですけど要するに提言ですから、我々が考えたものをお出しして、その予算がどうのこうのっていうよりは、我々が考えるのも、できる範囲の話を提言するわけなので、今までもやっているものもあるだろうしね。

やっている中で、皆さん検討していけば、これが実行可能かどうかってのはわかるわけですよ。だから、そこはいろいろあるわけですからね。そこで検討してやっていけばいいんじゃないかなと思いますけどね。

○中村英仁委員長 おっしゃるとおりですけど、ちょっと初め戻っていいですか。

その件も要は2つに分けてやるかとかみたいなことを踏まえて、今、ここでという話もなかなか難しいと思うので、他のやり方のところで、当然ですけど、今回すごくいい視察ができていますし、皆さんの防災に対する意識っていうのも、高い状況で、いいものが作れるということで考えると全員参加型っていうのは、しっかりやっていくべきじゃないかなと私も思います。より実効性を高くするのであれば、皆さんが本気で関わ

る。

今の状況を把握して、今後をしっかり考える。そういう形がいいかなと思います。

そのほかに、委員の皆様から、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○中村英仁委員長 では、議会局から何かございますか。

議会局書記。

○議会局書記 それでは、政策提言に関する次回の常任委員会の開催につきまして、御連絡いたします。

今回は、8月19日・月曜日に議員連絡会がありますが、その日に開催するという予定を入れていただければと思います。

以上です。

○中村英仁委員長 議会局から連絡ありましたが、8月19日・月曜日ですので、お間違えのないようにしていただいて皆さんと、今、お話したとおり、協議としては、政策提言のテーマに関係する団体との意見交換先の選定など、政策提言に向けた話合いをしていきたいと考えております。

それでは以上で、総務常任委員会を閉会いたします。

午前10時50分 閉会

総務常任委員会委員長 _____